

『ひざ・股関節外来』を開設します

～膝・股関節の痛みを、“歳のせい”とあきらめていませんか？～

人生100年時代、この高齢化社会にとって寿命だけではなく「健康寿命」をいかに保つかが課題です。膝・股関節の痛みは、歳のせいだから仕方がない、とあきらめてしまう方も多いようですが、日常生活の幅が狭まり、身の回りのことを自分で行ったり、散歩や外出などの趣味を楽しむことも困難となるばかりか、寝たきりに近い状態にもなり得ます。介護を必要とする原因の1/3を運動器疾患が占め、変形性膝関節症を有する人口は2500万人にも及ぶとされています。これは40歳以上で見ると男性の42%、女性の62%にも及びます。

地域の皆様の、自分の脚で立って歩く、そんな“あたりまえ”を少しでも応援できればと、今回『膝・股関節外来』を開設しました。

新しい関節治療 PFC-FD療法（再生医療）

これまで変形性関節症の患者さんで、投薬やヒアルロン酸注射、リハビリなどで改善せず、疼痛が強い場合には手術を選択せざるを得ないのが現実でした。とはいえ、手術したくない、仕事などで入院ができない、健康上の問題などで手術が難しい場合もあります。そんな中、近年注目されているのが“再生医療”です。手術を考えるその前に、疼痛を緩和する新たな選択肢として大きな可能性を秘め、有効性を示すデータも増えています。ただ現時点では保険適応外の診療となっています。当院でも再生医療のひとつPFC-FD療法を取り入れ、一つでも多くの選択肢を提示できればと考えています(詳細はPFC-FDリーフレットをご覧ください)

成長因子の投与で期待できる効果

PFC-FDに含まれる成長因子

PFC-FDには、血小板由来のさまざまな成長因子が同量の血液よりも多く含まれています¹⁾。傷の修復に不可欠なこれらの成長因子を関節内に注射することで、痛みを和らげたり、損傷部位の修復が期待できます。

成長因子の働き

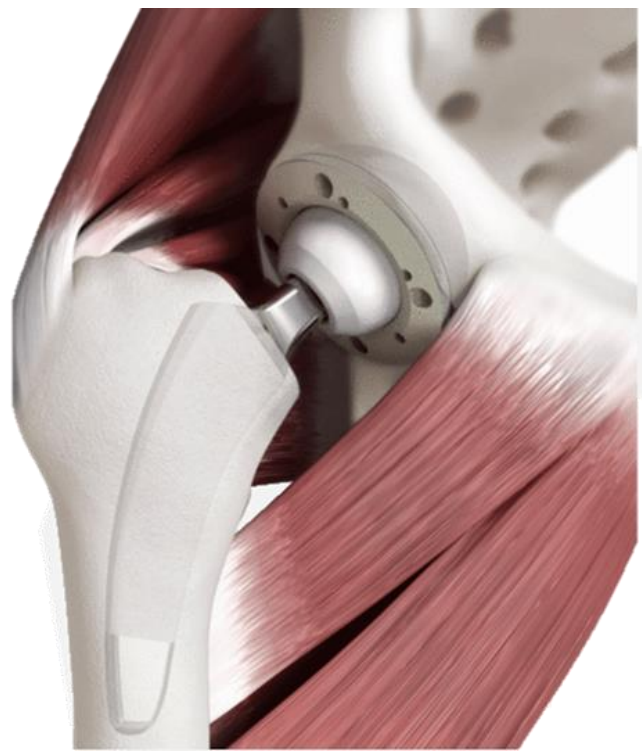
- 1 抗炎症作用²⁾**
血液中の血小板内には、炎症を抑える働きなどを持つ成長因子が含まれています。
- 2 修復促進²⁾**
血小板に含まれる成長因子は、自己修復に必要な細胞増殖を促進させます。
- 3 コラーゲン産生を促進³⁾**
血小板に含まれる成長因子による線維芽細胞の増殖は、骨や血管を作るために欠かせないコラーゲンの産生を促します。

1) Araki J, et al. Tissue Eng Part C Methods 2012; 18 (3): 176-185.
2) Andia I, Maffulli N. Nat Rev Rheumatol 2013; 9 (12): 721-730.
3) Fei Y, et al. Curr Pharm Des 2013; 19 (19): 3354-3363.

青戸克、ほか、整形・災害外科 2014; 57 (8): 965-970より作成

最小侵襲手術について

最小侵襲手術とは、正常な組織（皮膚や筋肉、靭帯など）の損傷を最小限にした手術方法です。人工関節置換術は骨を切って、金属やセラミックでできたインプラントに取り換える「骨」の手術と思われがちですが、骨の周りの「軟部組織」の扱いがとても大事で、筋肉を切れば筋力は落ちますし、靭帯を切ればゆるんだ関節になってしまいます。これらの軟部組織をできるだけ温存することで、術後の痛みの軽減や、回復の早さ、脱臼などの合併症の少なさにつながると考えています。当院でも最小侵襲手術を取り入れ、人工股関節では筋肉をほとんど切らない



人工関節イメージ

い“前方アプローチ”を症例に応じて行っています。さらに特殊な牽引台を使用することで、より正確で安全な最小侵襲手術が可能となっています。また膝関節についても、年齢や変形の程度によっては、関節の内側だけ取り換える部分置換術や関節を残す骨切り術など、それぞれの患者さんに合わせたオーダーメイドな治療を提案できるよう心がけています。



股関節手術用牽引台

ごあいさつ

膝・股関節外来を担当させていただく森島です。関節痛に対する再生医療は大きな可能性を持ち、関節痛に悩む患者さんの新しい選択肢となり得ます。保存療法を続けても良くならない、でも手術はしたくない、という方にむけて当院でも再生医療を導入しました。また、手術となった場合も、手術後に「痛くてリハビリも辛い」ではなく「リハビリするのが楽しみ」と思っただけできるよう、手術手技の工夫だけではなく、術後の疼痛管理にも力を入れています。関節の痛みでお悩みでしたら、ぜひお気軽にご相談ください。

森島 拓 医師プロフィール

多くの医局関連病院にて研鑽を積み、幅広い分野を経験。当院のほか、他県の人工関節センターや整形外科病院での人工関節手術や外傷手術も担当しており、年間200件以上の手術を執刀。当院では膝・股関節疾患を中心に診療。

【経歴】

2008年 群馬大学医学部卒業

東京大学 整形外科医局に入局後

関東労災病院、東京大学医学部附属病院、三井記念病院、関東中央病院、さいたま赤十字病院、都立墨東病院、焼津市立総合病院、三宿病院での勤務を経て、現職

【資格】

日本整形外科学会専門医

AMIS(前方最小侵襲手術)ライセンス認定

AO Spine Principle Course修了

Interlocking Nailing Course for Surgeons in Berlin,Germany 修了



膝・股関節外来（人工関節/再生医療）
毎週金曜午後 15時～17時
詳細は、外来受付まで